

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	学童支援ゆめの森		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 15日		～ 2025年 2月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2025年 1月 15日		～ 2025年 2月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもへの支援及び実践に対して、保護者や子どもたちから信頼していただいている。	保護者からの子どもの状況の聞き取り及び、実際の子どものかかわりを通じての職員の気づきの交流などを通して子ども理解を高めている。さらに、活動のなかで、子どもの意見や感想も参考にしながら、毎月の活動内容について、職員間で検討を行っている。	すでに、外部研修への参加や、事業所での研修の機会なども設けているが、その質を高めていくことは考えられる。職員の気づきを、実践記録や場面記録などにまとめ、より質の高い支援の振り返りを行うことで、さらなる向上を望みたい。
2	職員と保護者とのコミュニケーションが取れており、必要な時に必要な支援につながっている。	保護者会や役員会などを定期的に行い、事業所の活動の説明だけでなく、保護者同士が交流する機会を設けている。子どもや保護者からの相談など、事業所の対応に問題があった場合など、職員間で状況を把握し、速やかに対応ができるようにしている。	活動終了後、保護者の事業所の迎えの際の職員からの実践の説明が保護者とのコミュニケーションをとる機会となっている。なおかつ、管理者や児発管だけでなく、様々な職員がコミュニケーションをとることで、保護者にとっても、話しやすい職員に話ができる環境につながっている。今後も、保護者が意見を出しやすく、職員が感知しやすい環境を構築できるように努めたい。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	大規模災害や火災などの際の事業所の対応について、保護者への説明や、その際の保護者の役割などについて検討する必要がある。	事業所で、マニュアルなどを作成し定期的に研修などで共有している。なおかつ、定期的に他事業所とも連携を行いながら訓練も実施している。しかし、そのことが保護者に伝わっていないという面もある。	東日本大震災では、学校や保育園などの対応の不十分さから被害を拡大したケースもある。実際に、いつ同じような大規模災害が起こっても不思議ではなく、その際に事業所としてどのように対応するのか。事業所内での検討はもちろんだが、法人全体でも話題にしながら、保護者とも語り合い共有する機会を設けたいと思う。
2	地域との交流について、保護者のなかにも、様々な意見があることについて、意見交換や検討が必要。	地域との交流が、子どもにとってどのような意味があるのか、必要性も含めて職員間および保護者との意見交換を重ねる必要がある。メリットとデメリットを出し合い、保護者の意見も聞き取りながら、慎重に進めていく必要がある。	必要性について、保護者や職員相互に語り合うなかで、具体的な方法ややり方について、都度検討しながら実施していく。例えば、買い物活動であれば、買い物スキルを高めるだけでなく、地域の商店で買い物をするという地域参加という側面もある。このように、一つ一つの活動の要素を抽出し、実践での意味づけを検討する。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 学童支援ゆめの森

公表日 2025年2月27日

利用児童数

26人 2025年2月28日

回収数 19

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19					2つの遊戯室を活用して、状況に合わせて使い分けています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	18			1		他事業所と連携を行う、法人内会議の時間など設定、送迎の体制を工夫するなどして、実践体制を確保していきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	18	1				各部屋の使い方の表示や、荷物を置く場所など工夫していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	18				1	環境整備や日々の清掃などありがとうございます。職員で清掃する時間を設定するなど、清潔な空間を保つ工夫を行っていきます。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	1		1		日々の打ち合わせや、実践のなかでの職員同士の気づきを相互に交流し、子ども理解を深められるようにしていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	17	2				毎日の実践に対して支援プログラムを作成し、その日の実践のねらいや意図について確認・意見交換を行っていきます。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19					作成の前に保護者と面談、職員間で共有し支援計画の作成及び検討・修正を行っていきます。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	17	1		1		保護者や子どものニーズを前提にそれぞれの子どもの状況や家庭状況に合わせて、職員で支援内容について検討を行い計画を作成していきます。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17	1		1		計画の作成段階から、職員が参画することで支援計画について共有できるようにしていきます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	1				活動のなかで、子どもの意見や感想も参考にしながら、毎月の活動内容について、職員間で検討を行っていきます。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	13	3	1	2	機会がある方が困る	地域の公園や公共機関を活用するなどの工夫を行っていきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19					モニタリングや計画の説明の際に、事業所側の狙いや意図を丁寧に保護者へ説明を行っていきます。
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	17	2				モニタリングや計画の説明の際に、事業所側の狙いや意図を丁寧に保護者へ説明を行っていきます。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	1				親子で活動に参加する機会を定期的に企画し、保護者相互に交流する機会を設けていきます。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	17	1		1		活動終了後必ずその日の活動内容や子どもの状況について保護者へ説明する機会を確保していきます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	1				定期的に行うモニタリングの機会など以外にも、必要に応じて保護者からの相談を受け付けて対応していきます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	19					定期的に行うモニタリングの機会など以外にも、必要に応じて保護者からの相談を受け付けて対応していきます。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	17	2				保護者会や役員会などを定期的に行い、事業所の活動の説明だけでなく、保護者同士が交流する機会を設けていきます。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17	1			1	子どもや保護者からの相談など、事業所の対応に問題があった場合など、職員間で状況を把握し、速やかに対応ができるようにしていきます。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18	1			定期的に行うモニタリングの機会など以外にも、必要に応じて保護者からの相談を受け付けて対応していきます。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	17		1	1	毎月の事業所からの通信や、必要に応じて、事業所からのお知らせを配布していきます。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	17				2	職員間で情報の機密性について共有し、子どもの情報など事業所内から漏洩することが無いように配慮していきます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	1			2	各種マニュアルの作成および職員への周知を行っており、今後BCPの作成及び、定期的な訓練の際に職員間で非常時の対応について確認を行っていきます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14	1			4	BCPの作成及び、定期的な訓練の際に職員間で非常時の対応について確認を行っていきます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19					安全計画の作成および、職員間での共有を図っていきます。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17				2	非常時の対応について、必要に応じて保護者へ説明を行っていきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	19					学校での状況や、家庭での状況を聞き取り把握したうえで、子どもの気持ちを受け止めていけたらと考えています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19					活動の中で子どもがやりたい活動、好きな活動を聞き取り、期待して登園できるような働きかけを継続したいと思っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19					これからも親、事業所、学校、地域で子どもたちを真ん中に協力してくださると私たちも親も安心できます。
							子ども・保護者のご意見を受け止めながら、今後も事業所の実践の質を高めていきたいと考えています。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		学童支援ゆめの森				公表日	2025年 2月 27日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		2つの遊戯室を活用して、状況に合わせて使い分けている。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		○		他事業所と連携を行う、法人内会議の時間など設定、送迎の体制を工夫するなどして、実践体制を確保している。	体制により難しい時がある	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○		各部屋の使い方の表示や、荷物を置く場所など工夫している。		
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		職員で清掃する時間を設定するなど、清潔な空間を保つ工夫を行っている。	清掃を毎日の習慣に取り入れられたら、もっといい環境になるのではないかと。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		面談を行う部屋や、施設内の各部屋を必要に応じて活用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日の職朝や打ち合わせなどの時間の確保。毎月の職員会議などの際に職員全員が発言できるように工夫している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年保護者評価を行い、職員で共有・公表している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職朝や職員会議などで出た意見を事業所の運営に反映させている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		現在は行っていない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事業所内研修や、他事業所との合同研修、法人内研修などへの参加及び、外部研修などへの参加を行っている。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		毎日の実践に対して支援プログラムを作成し、その日の実践のねらいや意図について確認・意見交換を行っている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		作成の前に保護者と面談、職員間で共有し支援計画の作成及び検討・修正を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		作成の前に保護者と面談、職員間で共有し支援計画の作成及び検討・修正を行っている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画の作成段階から、職員が参画することで支援計画について共有できるようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		必ずしも子どもが適応できるかどうかを評価基準としていない。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		保護者や子どものニーズを前提にそれぞれの子どもの状況や家庭状況に合わせて、職員で支援内容について検討を行い計画を作成している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎日の実践に対して支援プログラムを作成し、その日の実践のねらいや意図について確認・意見交換を行っている。	幅広い年齢層のグループのため、時には小学生と中学生を分けた活動を定期的に取り入れられたらいいのではないかと。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動のなかで、子どもの意見や感想も参考にしながら、毎月の活動内容について、職員間で検討を行っている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの状況に応じて、個別な活動場面と、集団での活動を組み合わせを行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日の活動の狙いや、役割分担について活動前に必ず打ち合わせをするようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		当日には難しい場合には、次の日に振り返りを行うなど工夫している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日の支援について、反省を行い、実践プログラムに記載している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		原則半年ごとにモニタリングを実施。必要に応じて、面談や見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		子どもの状況や希望に応じて、基本活動を組み合わせている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動の際に、子どもから聞き取りを行うことで、子どもがしたい活動・あそびを選択できるように工夫している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		職員間で子どもの状況を共有・把握したうえで、児発管や管理者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		ケース会議や、情報把握のための連携など、必要に応じて関係機関と情報交換ができる関係づくりを構築している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		年度はじめに、年間計画を相互に共有している。また、子どもの状況に変化が生じたときなど連絡が取れるような体制を整えている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		入園時に保護者からの聞き取りをはじめ、それまで在籍していた事業所への聞き取りを行い状況を把握している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業後に子どもが在籍する機関との連携など、必要に応じて行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		同一法人内の事業所同士の情報交換や、実践記録などの共有による実践検討を行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の公園や公共機関を活用するなどの工夫を行っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		必要に応じて参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		活動終了後必ずその日の活動内容や子どもの状況について保護者へ説明する機会を確保している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		親子で活動に参加する機会を定期的に企画し、保護者相互に交流する機会を設けている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		面談の際や、入園児のオリエンテーションなど、事業所の運営方針や支援内容など丁寧に説明を心掛けている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談やモニタリングの際に、保護者のニーズや、活動時に子どものニーズを聞き取ったうえで活動の方針を決定している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		モニタリングや計画の説明の際に、事業所側の狙いや意図を丁寧に保護者へ説明を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的に行うモニタリングの機会など以外にも、必要に応じて保護者からの相談を受け付けて対応している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会や役員会などを定期的に行い、事業所の活動の説明だけでなく、保護者同士が交流する機会を設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		子どもや保護者からの相談など、事業所の対応に問題があった場合など、職員間で状況を把握し、速やかに対応ができるようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月の事業所からの通信や、必要に応じて、事業所からのお知らせを配布している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		職員間で情報の機密性について共有し、子どもの情報など事業所内から漏洩することがないように配慮している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		保護者や子どもの状況に応じて、電話や口頭・書面などの方法を使い分けて伝達している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		法人内の行事開催の機会などに、広く地域住民に呼びかけて参加する機会を設けている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルの作成および職員への周知を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPの作成及び、定期的な訓練の際に職員間で非常時の対応について確認を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		入園時に医療の状況や、既往歴について保護者より聞き取り、入園後も新たな医療的な支援について確認・共有を行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーの有無の確認は必ず行い、事業所で提供するおやつや食事については、除去するようにしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画の作成および、職員間での共有を図っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		非常時の対応について、必要に応じて保護者へ説明を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットの記入や、職員間での共有を行い、常に再発防止について、対応を確認している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止の研修や、虐待が起こるメカニズムの把握及び、職員間でのコミュニケーションの機会を設けている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束の必要な状況や、条件について職員間で共有し、原則行わないことを確認している。		